

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組】(A中学校)

昨年度から「誰一人取り残さない、生徒一人一人の学力向上を図る教育実践」に取り組んでいる。その中で、学力向上のためには、居心地のよさを生徒が実感できる学級経営が重要だと考えている。生徒が安心できる環境づくりを意識し、学級の中で、生徒一人一人が自信をもって学習に取り組めるように配慮している。

1年生のある教科の授業では、「ノートの達人」という取組を行い、生徒のノートのコピーを掲示している。ノートのイラストや感想を共有し、学習に苦手意識をもつ生徒にとっても取り組みやすい工夫をした。ノートの作成に自信をもつ生徒が増えた。

学校行事に向け、多くの学級で生徒たちがお互いにメッセージ文を作成し、寄せ書きの掲示物を作成している。学校行事への意気込みや仲間への思いを表現し、学級の中で互いに認め合うことができる機会となっている。

運動会での寄せ書きでは、「リレーが自分のせいで遅くなってしまっても巻き返そうとしてくれてありがとう。」という仲間への感謝の思いもつづられており、生徒相互の信頼関係の深まりが見られた。



#### 【取組2】(B中学校)

国語の授業では、学習に取り組む際に、「自分がどこまで頑張るか」という目標を生徒自身が決めて取り組むようにしている。古典では、学習の達成目標を生徒に事前に提示にして、生徒自身が学習の目標を決めることができ、振り返りしやすいようにしている。生徒自身が決めた目標を達成できるようにし、学習への達成感につなげている。

#### 【取組3】(C中学校)

1学期と2学期にそれぞれ実施した生活意識調査に基づいた研修会を不登校対応巡回教員が行った。生活意識調査の結果に加え、「居場所づくり」と「きずなづくり」について当該校の現状に分析して説明した。学校・学級内で生徒にとっての「居場所」をつくり、安心できる学校生活につながっていることを共有できた。このような研修会での取組を不登校の未然防止や早期対応に生かしていく。

## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（C中学校）

毎週支援会議を行い、生徒の情報を共有している。担当教員が生徒の状況を説明しながら学年を超えて支援方法を検討している。文化祭などの学校行事では、不登校生徒の当日の動きについて支援委員会で共有し、一覧にまとめることで、学校全体で個に応じた支援ができるよう工夫した。

#### アウトリーチによる支援（A中学校）

担任となかなか面会することができない生徒に、1学期から家庭訪問を継続している。当初は外に出ることも難しい状況だったが、現在では学校の近くまで一緒に散歩をしたり、公園で話をしたりできるようになり、外出への意志も示すようになるなど、前向きな変化が見られている。

#### 校内別室における支援（B中学校）

校内別室で時間割を作成し、その時間の担当教員が教科の授業を行っている。多くの教員が校内別室の生徒と関わり、学校全体で協力体制ができている。また、ソーシャルスキルトレーニングの手法を取り入れた活動も行っている。他者との関わりを楽しんだり、成功体験を積んだりするなどして、生徒がコミュニケーションに自信をもつことができるように支援している。



#### デジタル機器を活用した支援（D中学校）

校内別室でオンライン授業の配信を開始した。校内別室を利用している生徒はノートを取りながら配信を聞いている。生徒によっては、授業の内容だけでなく、提出課題についても確認するようになり、定期考査に取り組む意欲も高まっている。

#### 関係機関との連携（D中学校）

不登校生徒の中には、区の教育支援センターや共育プラザに通室している生徒も多い。これらの機関と連絡を密に取ることで、通室状況や学習の様子などを共有し、次のステップにつながる支援方法を校内委員会等で検討している。出席扱いとなることで生徒たちの自信にもつながっている。

## 成 果

- ・ 不登校生徒との信頼関係の構築
- ・ 登校した際の個に応じた対応
- ・ 校内別室の環境や制度の整備
- ・ 教職員の不登校に関する意識の高まり

## 課 題

- ・ 不登校生徒の割合の抑制
- ・ 個別支援計画の作成と活用
- ・ アウトリーチ支援の促進
- ・ 出欠席の取扱いの明確化